

親子 ふれあい体操

食べて、動いて、よく寝よう!

早稲田大学人間科学学術院 教授／医学博士 前橋 明
〒359-1192 所沢市三ヶ島2-579-15 TEL&FAX 04-2947-6902

体操で育つもの

巧緻性や平衡性、敏捷性などの調整力、筋力、空間認知能力、回転感覚や逆さ感覚、支持感覚の向上、親(保護者)と子のコミュニケーションづくりと情緒の開放、感動体験

部屋の中で行うときは、窓を開けて風通しをよくして行いましょう。体操が終わったら、手洗いやうがいをして、汗をしっかりふくようにしましょう。
では、親子ふれあい体操を紹介してみます。

③メリーゴーラウンド

子どもを抱っこして腰と背中を手で支え、脇で子どもの足をしっかりと挟み、クルクル回ります。上下させたり、回る方向も変えてみます。



①高い高い
子どもの大好きなそび。喜ぶことで楽しく感じ、また、やりたないと気持ちを起こさせます。

②スーパー・マン
親は、子どもの胸ともとに手をあわせ、子どもを持ち上げます。移動しながら、子どもを上上下下させます。



⑦足跳びまわり

親は両足を開いて座わり、子どもはその足の上を両足踏み切りで飛び越えて、親の背後をひと回りします。できたら、片足跳びや横跳び、後ろ跳びにも挑戦します。

かんがえる子
かんばる子
やさしい子
くふうする子
子の
未来づくり



⑥逆さ口ボット

子どもは、逆さになつて、親の足の甲の上に、手を乗せます。親は、子どもの両足首を持ち、少し引き上げて歩きます。



⑤手おし車

子どもにとって、腹筋や背筋、腕力を使うダイナミックな運動です。前進だけでなく、後ずさりもします。持っている足の高さを低くすると、少し歩きやすくなります。



④口ボット歩き

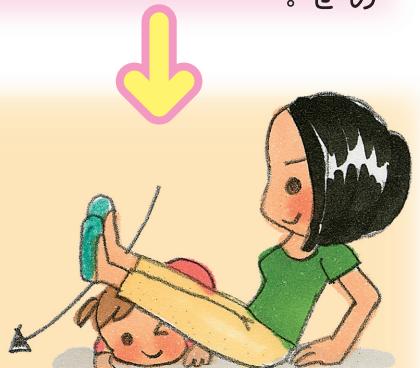
親の足の中に入り、親子で手を握つていつしよに動きます。前方や横方向、後ろ方向へと移動します。親が大またで動くと、子どもは大喜び。両足を広げて、また歩きだ!



⑧ 跳び越しくぐり

子どもは、座っている親の足の上を飛び越えた後、今度は浮かせた体(しり)の下をぐぐり抜けます。

た
休



⑨両足ぐり

親は両足をそろえて／序になります。子どもは、親の両足の下をくぐり抜けます。

「力試しをし
てみよう」と誘
いかけます。親
は仰向けに寝て、
足を垂直に立て、
両手は床面につ
けて、足が倒れ
ないように支え
ます。子どもは、
その大木(親の
両足)を倒すよ
うにします。



10 丸太たおし

①子どもは、親の足をまたいで立ちます。

②親は両足を開き、子どもは跳んで両足を閉じます。

③この動作を、声をかけ合いながら、繰り返します。2人の呼吸とリズムの取り方がポイント。

④上達したら、子どもが親に背を向けて行つてみます。



11 グー・パー・跳び

①子どもは、親の足をまたいで立ちます。

②親は両足を開き、子どもは跳んで両足を閉じます。

③この動作を、声をかけ合いながら、繰り返します。2人の呼吸とリズムの取り方がポイント。

④上達したら、子どもが親に背を向けて行つてみます。



足ジャンケン



親は子どもと手をついた手で相手のお尻をもたつかれないように逃げましょ。一本の夕オルの両はしを持ち合つて行つてみましょ。

ゆとりがもてるよー

②新力勝ったら手をつなぎまま、子どもの足を踏みにいきます。子どもが勝つたら、大人の足を踏みます。

①向かい合って手をつなぎます。「ジャンケン、ボン」で、同時に足を使ってジャンケンをします。

子どもは親の足をおなかに当てて、前方に倒れます。親はタイミングを合わせて、子どもを持ち上げます。慣れていないときは、子どもの両手をもつて行いましょう。

1
升行標



体操は いいことがたくさん!

- お金をかけずに、体力づくりができる（体力向上）
 - 道具も必要なく、体だけをつかって運動ができる
 - 子どもが親をひとり占めできる（心の居場所づくり）
 - 親が子どもの成長を確認できる
 - ふれ合うことで親子のコミュニケーションづくりに役立ち、言葉の発達につながる（社会性づくり）
 - 遊び方を工夫することで、知的面の成長にもつながる（学力向上）

夜の運動はNG

夜に体を動かしすぎると、子どもは血液循环がよくなり、かえって疲れなくなってしまいます。仕事から帰ってきたお父さん、夜の運動あそびはぐーっとガマンして。体を使ったあそびは、朝起きてから行うのが理想的です。

早稻田大学人間科学学術院 前橋 明 研究室
(04-2947-6902)
所沢市子ども支援課
(04-2998-9124)
所沢市保育課
(04-2998-9126)